

報告第15号

教育委員会事務の点検及び評価について

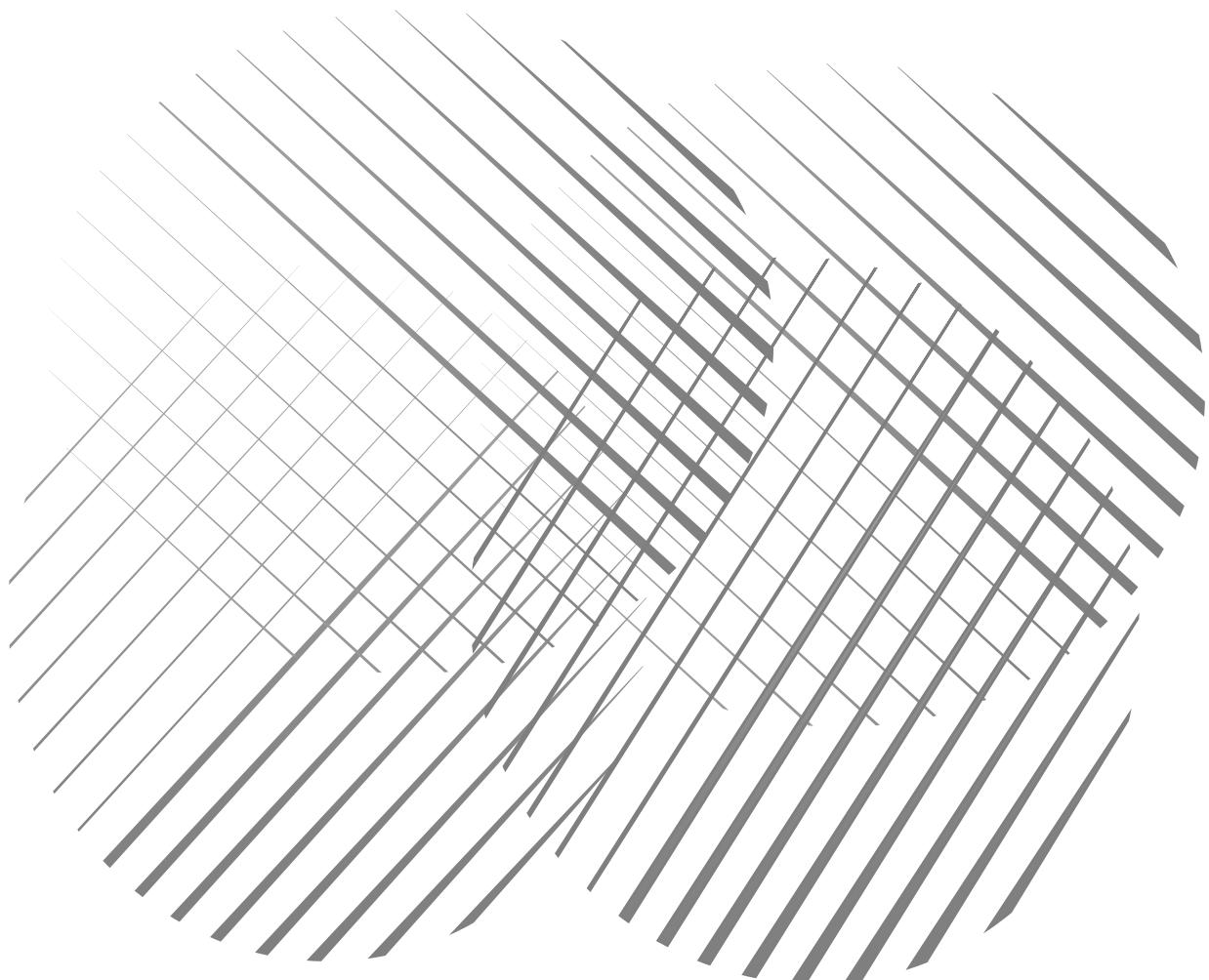
教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成したので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定により、報告する。

令和7年12月15日提出

柳井市教育委員会

教育長 西元良治

令和 7 年度 教育委員会点検・評価報告書 (対象：令和 6 年度事業分)



**令和 7 年 11 月
柳井市教育委員会**

目 次

1 趣旨	… 5 頁
2 前年度の学識経験者等による主な知見と反映	… 5 頁
3 点検及び評価の実施	… 6 頁
4 点検及び評価	… 7 頁
(1) 事務事業の評価結果集計（全体）	
(2) 事務事業の評価結果集計（箇所別）	
(3) 具体的施策と個別評価票	
愛の1 ~ 愛の7	… 9 ~ 20 頁
夢の1 ~ 夢の6	… 21 ~ 28 頁
志の1 ~ 志の8	… 29 ~ 41 頁
4-(1) ~ 4-(5)	… 42 ~ 47 頁
(4) 令和6年度重点事項における個別評価	… 48 頁
«学校教育»	
«社会教育»	
«スポーツ・文化»	
«環境整備»	
5 学識経験者の知見	… 53 頁
(1) 点検及び評価全般	
(2) 取組ごとの知見	
6 今後の取組に向けて	… 55 頁

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされています。

柳井市教育委員会では、法の規定にのっとり、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、令和6年度の教育委員会の取組の執行状況について、教育に関し学識経験を有する者の知見も踏まえた上で、点検及び評価を行いました。その結果をまとめましたので、報告します。

2 前年度の学識経験者等による主な知見と反映

(1) 企業研修では、自分の人権感覚を高めるための内容が多い。一方で、学校での研修は、先生個人の人権感覚の向上よりも、児童生徒にどう教えるかという人権教育の内容が多いように思う。多様性の時代においての人権教育はどう取り組まれているか。

» 山口県人権指針を基本として取り組んでいる。その中にあるLGBTなどのマイノリティへの理解や、インターネット上の問題など、幅広い価値観や考え方を隔たりなく理解するためにも、幅広い分野の講師を招聘しての研修内容としている。

(2) 学校の考え方として、学校応援団の運営を進めるために必要なツールとして前向きに捉えるか、事務的に取り扱うかの差は大きいと思う。躊躇もあるかと思うが、各学校の状況に合わせながらメンバーを変えていくことも必要ではないか。そのための会長の研修会を行ってもよいかと思う。人材発掘が難しいことはわかるが、保護者経験者を入れることも良いのでは。

今の高校生が、地域の課題を見つけるのも、協議をするのも上手なのは、小学生、中学生の頃の熟議の恩恵を受けているから、しっかりと熟議に取り組んできたからと思う。

そのためにも、地域支援のボランティアの質をしっかり上げて、本人や保護者にとって、このコミュニティ・スクールって良いよねという感覚を知ってもらうことが大切。

(3) 算数、数学への補助教員の取組が2年目に入っている。抽象的な学習内容が増加する小学3・4年生へ焦点をあてるることは評価できる取組と思う。ただし、今回、その成果の捉え方として、四則計算実態調査の定着、徹底をあげている点は、検証方法としてそれが生じていないだろうか。例えば、公式を使うと面積を求める計算自体は簡単になる。しかし、どうして公式が成り立つかを理解していないと、公式を忘れると答えが出せない。3・4年生で重要なこととして、公式は抽象的だからこそ、具体的に測ってみたり、試してみたり、それで納得したり、そういう学習活動の補助が必要なんだと思う。これらは、従来の教師と子どもの人数関係では、概ねできなかった状況の中で、新たに補助教員を配置したことによって可能となった。算数に限らないが、きめ細かな指導とは、といった意味において成果を求める方向にあってほしいと思う。

3 点検及び評価の実施

(1) 点検及び評価の対象とした取組

本市では、平成27年11月に「柳井市教育大綱・柳井市教育振興基本計画」（計画期間：平成28年度～令和2年度）を策定し、教育目標を『愛・夢・志をはぐくむ教育』と定め、サブタイトルを「スクール・コミュニティによる教育のまちづくりの推進」とし、その実現に取り組んでまいりました。

また、令和3年1月には、それまでの教育を取り巻く環境や課題の変化を考慮した第2期の柳井市教育大綱・柳井市教育振興基本計画（令和3～7年度）を策定し、現在、その実現に取り組んでいるところです。

本計画では、学校を中心とした幅広い年齢層の市民が交流を深め、新たな絆を生み出し、学校、家庭、地域が一体となった人づくり・まちづくりを推進することによって、教育目標の達成をめざすこととしています。

このたびの評価の対象とした取組は、この第2期柳井市教育大綱・教育振興基本計画に基づき、令和6年度に教育委員会が実施した事務事業のうち、「令和6年度柳井市の教育計画」に掲げた具体的な取組について点検及び評価を行いました。

(2) 点検及び評価の方法

個別評価票として、具体的な取組の成果と有効性について点検し、成果指標について下記の評価基準に基づく1次評価（内部評価）を行いました。

（成果指標の評価基準）

- | | |
|-----------------------------------|------------|
| A : 目的を達成できた。 | [100%以上] |
| B : 取組における改善事項はあるものの、概ね目的を達成できた。 | [65～99%] |
| C : 目的の一部を達成できたが、取組の改善が必要である。 | [35～64%] |
| D : 目的の一部しか達成できず、取組の抜本的な改善が必要である。 | [0～34%] |

また、点検及び評価の客観性の確保とその活用を図るため、教育に関し学識経験を有する者として教育委員会が委嘱した3人の委員による2次評価（外部評価）を実施し、「学識経験者の知見」として記載しています。

(3) 点検及び評価の流れ

事務事業の選定（「令和6年度 柳井市の教育計画」に掲げる具体的な取組109取組）

- 1次評価（教育委員会：内部評価）
- 2次評価（学識経験者の知見：外部評価）
- 教育委員会会議での協議・議決
- 市議会への報告及び公表

4 点検及び評価

(1) 事務事業の評価結果集計（全体）

評価対象年度	業務評価				
	A	B	C	D	計
令和6年度	19	7	4	1	31
構成比%	61.3	22.6	12.9	3.2	100.0

(2) 事務事業の評価結果集計（箇所別）

担当課	業務評価				
	A	B	C	D	計
教育総務課	2	1			3
学校教育課	11	1	2	1	15
生涯学習・ スポーツ一 推進課	3	5	1		9
人権教育室	1				1
図書館	1				1
サンビーム やない	1				1
学校給食 センター			1		1
計	19	7	4	1	31

(3) 具体的施策と個別評価票

愛、夢、志をはぐくむ教育

～スクール・コミュニティによる教育のまちづくりの推進～

1 自分を愛し、人を
愛し、地域を愛する
教育の推進

～自己肯定感、他者肯定
感、地域肯定感の育成～

2 夢をはぐくむ
スクール・コミュニ
ティづくりの推進

～学校、家庭、地域の連携
による人づくり、まちづ
くりの推進～

3 志を実現させる
ための力の育成

～「生きる力」の確実な育成
を基盤としたキャリア教
育の推進～

愛の1
人権教育の推進

夢の1
学校運営協議会の機能
の強化

志の1
「確かな学力」の育成

愛の2
生涯学習の推進

夢の2
学校応援団のさらなる
充実

志の2
「豊かな心」の育成

愛の3
青少年の健全育成

夢の3
地域協育ネットの充実

志の3
「健やかな体」の育成

愛の4
芸術・文化の振興

夢の4
幼保小中高連携の強化

志の4
キャリア教育の推進

愛の5
スポーツ・レクリエーシ
ョン活動の振興

夢の5
家庭の教育力を高める
ための支援の強化

志の5
特別支援教育の充実

愛の6
歴史・伝統の継承と保護

夢の6
放課後子ども教室の充
実

志の6
生徒指導の充実

愛の7
郷土教材の開発と地域
人材による郷土学習

志の7
幼児教育の充実

志の8
教職員の資質向上

4 基本方針を支える環境整備 -----

(1) 情報発信の充実

(4) I C T 環境の整備・充実

(2) 安全で快適な学びの環境づくり

(5) 学校教材、図書の整備・充実

(3) 学校の適正規模・適正配置

【基本方針】 1 自分を愛し、人を愛し、郷土を愛する教育の推進
～自己肯定感、他者肯定感、地域肯定感の育成～

愛の1 人権教育の推進

業務の対象	学校、企業、保護者、市民	意図(対象をどうしたいのか)	一人ひとりの人権意識の向上を図る。				
指標1	人権教育研修会の開催件数(回/年)		成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6
			33	23	27	32	35
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	682千円	659千円	962千円	905千円			

[主な取組の成果と有効性]

① 人権教育の推進

- 人権教育研修会の開催 [人権教育室]
 - ・学校、企業、保護者及び市民を対象とした人権講座を、延べ 35 回開催
 - ・子どもの問題や高齢者問題をテーマとした講座をはじめ、人権課題等の状況に関する講義を実施
 - ・人権教育推進委員会を 2 回開催

② 相談・推進体制の充実

- 指導者の養成 [人権教育室]
 - ・指導者対象の研修、講座を 8 回開催
 - ・講義後のアンケートに、「多様性がどんどん当たり前になっていけばよいと感じた。」「職場の環境などが少しでもよくなれば良いと思う。実践したい。」との感想が記されるなど、人権意識向上へ向けた指導者としての動機づけにつながる評価を複数得た。

③ 人権啓発活動の推進

- 児童生徒の作品募集 [人権教育室]
 - ・人権啓発ポスターの募集により、市内小・中学校から 136 人の応募（毎年開催）
 - ・受賞作品の市役所ロビー展示や市報掲載により、保護者や市民に広く周知

<人権教育研修会の開催件数> [人権教育室]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
1	B	B	B	A	
主な理由	・成果指標 33 回/年に対し、35 回/年の成果であったこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・研修会の開催回数や参加者数は、概ねコロナ禍以前の数値に戻ってきてている。
- ・地域の課題や関心をとらえつつ、幅広い人権課題をテーマとして開催していくことが重要である。

愛の2 生涯学習の推進

業務の対象	学校、市民	意図(対象をどうしたいのか)	学習機会の確保と、学校図書館やみどりが丘図書館の運営にあたって連携を図る。				
指標2	図書館連携会議の開催件数(回/年)		成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6
			3	2	3	2	3
3	公民館講座や各種教室の開催件数(講座/年)		100	61	76	77	76
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	97,126千円	65,393千円	139,510千円	303,013千円			

[主な取組の成果と有効性]

① 普及啓発活動の推進

- 学習情報の提供 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・グループサークルの紹介冊子を各公民館等に配布・設置。併せて、市ホームページに掲載
 - ・各種教室や講座の開催情報を、市報、市ホームページ、公民館だよりに掲載し周知

② 学習活動の多面的支援と相談体制の充実

- しらかべ学遊館との連携 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・しらかべ学遊館に社会教育指導員2人を配置し、本課との業務を連携
 - ・展示室に生活民具を常設展示し、やないの暮らしを紹介。社会科見学等17件
- 学校図書館との連携強化 [図書館]
 - ・学校司書との連携会議を3回開催
 - 6/24 開催、みどりが丘図書館展示棚の活用について等協議
 - 10/31 開催、学校貸出に係る選書を協働で実施
 - 1/31 開催、児童書の購入図書の選定を協働で実施
 - ・小学校へ図書貸出 各学期6校、年1回1校
- 図書資料の充実 [図書館]
 - ・図書購入費9,720冊20,000千円
 - ・貸出点数179,626冊
 - ・新たに4社の雑誌スポンサーを得て、購入契約合計17件19誌
- 図書館の魅力の発信 [図書館]
 - ・図書館だよりの発行(毎月)
 - ・インスタグラムによる情報発信
 - ・館内サイネージによる図書館、市民活動センター及び市政に係る情報発信
 - ・映画上映会の定期開催(一般向け毎月 子ども向け年3回)
 - ・みどりが丘図書館開館記念イベントの開催
 - 7/17 谷尻誠トークイベント、11/3 五月女ケイ子トークイベント
 - ・図書館まつりの開催

10/12、10/13 みどりが丘フェスタ（柳井）、11/10 図書館まつり（大畠）

・各種イベントの開催

ブロックバトル等 20 件（柳井）、おまつり紙芝居等 6 件（大畠）

・職場体験、図書館見学の受入れ 16 件

・みどりが丘図書館ギャラリー展示の実施 12 件

○ みどりが丘図書館の開館準備と管理運営 [図書館]

・図書館協議会 2 回開催

・4/13 開催、移転に係る中学生ボランティアによる配架作業 参加 39 人

・図書館サポーター募集（応募 59 人）及び活動

配架サポーター 5/28、5/29 研修会開催 適宜実働

施設案内サポーター 5/25、5/28 研修会開催 案内配置 19 日

読み聞かせサポーター 6/7 研修会開催 サポーターによる読み聞かせ会 8 回

学習支援サポーター 5/25 協議会開催 夏休み宿題見守り 5 回、読書感想文お助け講座

イベントサポーター 10/6、10/12、10/13 みどりが丘フェスワークショップ準備・運営
11/22、11/23 古本リユース市準備・運営

○ 本に対する興味・関心の醸成 [図書館]

・マタニティ・ブックギフト事業 絵本の提供 93 件

・8/27、28、29 開催、市内在住小学 5・6 年生対象の一日図書館員 各日 2 人ずつ計 6 人

・12/14 開催、中学生ビブリオバトル大会、参加 15 人、観戦者約 58 人

・おはなし会の定期開催（毎月）

・小学校への図書貸出 各学期 6 校、年 1 回 1 校

・公民館への図書貸出（毎月）3 館

・アウトリーチ型サービスの実施 遠崎地区、神代地区

○ 部活動改革の推進 [生涯学習・スポーツ推進課]

・やない部活動改革推進協議会を開催、学校部活動の地域連携・地域移行（地域展開）に係る取組を推進

・休日の学校部活動に、部活動指導員 7 人任用（7 部活動）、外部指導者 18 人配置（10 部活動）

③ 人材・組織の育成

○ 公民館講座や各種教室の開催 [生涯学習・スポーツ推進課]

・年間を通じ中央公民館及び各地区公民館において、76 件の講座、教室を開催

○ 各種研修会への参加 [生涯学習・スポーツ推進課]

・公民館職員東部地区研修（周防大島町）参加 21 人

④ 学習成果発表会の充実

○ 公民館まつり等の開催 [生涯学習・スポーツ推進課]

・11/23 開催「柳井まつり協賛展覧会」、「中央及び各地区公民館まつり」等

⑤ 生涯学習推進体制の整備充実

○ 講演会の実施 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・7/6、7/26 開催、「山口県立大学サテライトカレッジ」
- 公民館の整備 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・阿月公民館整備の実施、3月24日から供用開始
- 社会教育施設の活用 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・8/3、9/17 開催、星の見える丘工房「天体観測会」、参加延べ38人
 - ・新庄公民館及び星の見える丘工房での陶芸活動を継続実施

<図書館連携会議の開催件数> [図書館]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
2	B	A	B	A	
主な理由	・成果指標3回/年を実施し、学校及び市立図書館職員間の意思疎通と連携を図ったこと。				

<公民館講座や各種教室の開催件数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
3	C	B	B	B	
主な理由	・成果指標100回/年に対し、76回実施の成果であったこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・生活スタイルや教育的機能の変化により、多様な学習機会の提供が求められている。
- ・幅広く提供主体を求め、従来どおり以外の学習機会を模索することも大切である。
- ・学校や地域との連携をより強化し、図書館サポーターの活動を軌道に乗せ、みどりが丘図書館の運営に市民の参画を得ながら、来館者の増加に向け市民のニーズに応じたイベントやワークショップなどの取組を行っていく必要がある。
- ・みどりが丘図書館の所蔵能力に応じた蔵書数の増加を図るとともに、市民のニーズを満たす図書資料の質の充実を図る必要がある。

[参考]



みどりが丘図書館開館



谷尻誠・山崎亮トークイベント

愛の3 青少年の健全育成

業務の対象	青少年	意図(対象をどうしたいのか)	街頭補導やあいさつ運動を通じ、青少年の非行を防止する。				
指標4	少年補導員による街頭補導回数(回/年)		成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6
			30	30	30	30	
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	2,162千円	2,188千円	2,258千円	2,533千円			

[主な取組の成果と有効性]

① 青少年育成センターの充実

- 街頭補導の実施 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・少年補導員 44人により、市内全地区において巡回を30回実施
 - ・青少年健全育成市民会議常任委員会を開催、状況報告や各地区取組内容の情報交換・共有
 - ・7月に青少年問題協議会を開催し、状況報告や取組内容の情報交換及び共有

② 青少年を取り巻く環境の整備

- 小中高生徒指導連絡協議会への参加 [学校教育課]
 - ・7/8開催の協議会で、小中学校及び関係機関による状況報告や情報を交換・共有
- 二十歳の集いの開催 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・1/5開催、「令和7年柳井市二十歳の集い」、参加212人

<少年補導員による街頭補導回数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価4	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	A	A	A	A	
主な理由	・成果指標30回/年に対し、30回実施の成果であったこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・少子化や生活様式の変化により、街中で子どもの姿を見かけることが少なくなっている。
- ・SNS対策も、併せて実施する必要がある。
- ・過去補導した店舗従業員等と人間関係をつくり、スムースに活動できるよう努めている。
- ・効果的な街頭補導の方法について、集中的に実施する期間や時間帯等を工夫して実施する。

愛の4 芸術・文化の振興

業務の対象	学校、団体、市民	意図(対象をどうしたいのか)	芸術や文化に触れ合う機会の充実と、自主的な活動への支援を推進する。				
指標5	サンビームやない自主文化事業の開催回数(回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		3	1	5	5	5	
経費		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	
454 千円		390 千円	4,137 千円	3,208 千円			

[主な取組の成果と有効性]

① 文化にふれあう機会の充実

- 美術展覧会等の開催 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・短詩型文学祭を開催、投稿数は短歌部門 62 首、俳句部門 60 句
 - ・11/10～14 開催「市美術展覧会」、第 60 回記念行事として小中学生の部を実施。出展数 514 点、来場者 1,082 人

② 自主的な芸術・文化活動の促進

- 自主文化事業の開催 [サンビームやない]
 - ・8/3 開催、絵本 de クラシック「ブレーメンの音楽隊」、入場 582 人
 - ・8/17 開催、次世代アーティストによるサマーコンサート、入場 183 人
 - ・11/10 開催、第 34 回サザンセト音楽祭 洋楽の部、入場 271 人
 - ・12/1 開催、第 34 回サザンセト音楽祭 郷土芸能・邦楽の部、入場 227 人
 - ・12/15 開催、スタイルウエイを弾く会、入場 114 人

③ 文化施設の適正な管理運営

- 施設の適正な管理運営 [生涯学習・スポーツ推進課] [サンビームやない]
 - ・市文化福祉会館・勤労青少年ホーム（指定管理）利用者 56,598 人
 - ・サンビームやない 使用率 33.3% 入場者数 16,167 人
 - ・サンビームやない修繕・改修…楽屋トイレ改修工事等

<サンビームやない自主文化事業の開催回数> [サンビームやない]

評価5	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	D	A	A	A	
主な理由	・成果指標4回/年にに対し、5回開催の成果であったこと。 ・今年度は、（買取公演）絵本 de クラシック「ブレーメンの音楽隊」を開催した。				

[今後の課題と改善案]

- ・出品者が固定化する傾向があるため、新たな出品者増加への周知を図る必要がある。
- ・サンビームは、買取公演を含めた企画運営に携わる自主文化事業があり、子ども向け、若者向け、高齢者向け等に応えられる立案を検討する必要がある。
- ・舞台に係る設備機器の更新を実施し、公演に影響が出ないよう努める必要がある。

愛の5 スポーツ・レクリエーション活動の振興

業務の対象	市民	意図(対象をどうしたいのか)	スポーツ参加の機会拡充による健康の増進を図る。				
			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
指標6	市主催大会への参加者数(延べ人数)	成果指標	5,600	0	666	3,675	5,223
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	150,417 千円	158,187 千円	228,544 千円	1,965,530 千円			

[主な取組の成果と有効性]

① 生涯スポーツの推進

- スポーツ活動への参加促進 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・ 10/14 開催「市民スポーツ・レクリエーションのつどい」、参加 4,423 人
 - ・ 12/8 開催「第 37 回市民駅伝競走大会」、参加 203 人、従来規模による。
 - ・ 1/13 開催「第 67 回柳井市ロードレース大会」、参加 361 人、従来規模による。
 - ・ 2/22 開催「琴石山健康ハイキング大会」、参加 236 人、従来規模による。

② 技術力の向上

- スポーツに関する競技水準の向上推進 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・ 市スポーツ協会を通じ、同協会が実施する加盟団体活性化事業や、優秀な成績を挙げた個人及び団体への表彰式の開催などに対し、競技水準向上に向けた取組に対する助成（柳井サッカー協会、柳井市フェンシング協会、柳井市バスケットボール協会）
 - ・ 全国大会等出場者への激励金交付 224 件
 - ・ 県体育大会への激励金、一般 79 件、スポーツ少年団 154 件

③ 人材の育成

- スポーツを通した青少年の健全育成 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・ 市スポーツ少年団団員募集の冊子を、市内全小学校児童に配布
 - ・ 市スポーツ少年団主催の「親子交歓会」は 6 団体 132 人参加

④ スポーツによる地域活性化

- 地域交流及び情報発信の推進 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・ 大学運動部等による「スポーツ合宿」の助成件数 15 件、延べ 2,028 人
 - ・ 市内で開催する大会参加者への「スポーツ大会宿泊」の助成申請件数 0 件（バタフライアリーナ改修のため）
 - ・ 10/6 に開催を予定していた「ザザンセト・ロングライド」は中止
 - ・ 7/27、7/31、8/2 開催「パリオリンピックパブリックビューイング」、参加者のべ 1,300 人
 - ・ 2/11 バタフライアリーナこけら落とし事業「卓球Tリーグ」開催 入場者数 1,054 人

⑤ スポーツの場の充実及び施策の推進

○ 施設の整備及び利用の促進 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・アデリーホシパーク(柳井ウェルネスパーク)の大型遊具、アクアヒルやない男性用サウナ室等の修繕を実施
- ・バタフライアリーナ(市体育館)の耐震のため大型改修を実施し、メインアリーナに冷暖房設備を整備
- ・老朽化した柳井市弓道場を建替え
- ・ビジコム柳井スタジアムのラバーフェンス張替え
- ・スポーツ施設の年間利用者数 432,922 人

○ スポーツに関する功績者の顕彰 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・市スポーツ推進条例、市教育委員会選奨規則及び市表彰規定に基づく功績等の情報収集

<市主催大会への参加者数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価 6	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	D	D	B	B	
主な 理由	・行事内容の改善や SNS を利用した周知などにより、スポーツ行事への参加者が増加傾向にある。 ・チーム編成が必要な駅伝については、参加団体が減少した。				

[今後の課題と改善案]

- ・スポーツ推進計画を見直し、スポーツを中心とした交流人口増加を図ることで、市民のスポーツ活動への関心、参加が高まるよう内容の検討を行う必要がある。

〔参考〕柳井市スポーツ少年団を構成する 21 団体

空手道	和道会空手道正心館	武心会柳井空手
剣道	カワノ道場	新庄少年剣友会
柔道	斉藤柔道クラブ	
水泳	やないスイミングクラブ	柳北水泳
レスリング	大畠レスリング	
硬式野球	ヤングSAD	
ソフトボール	新庄ブルーイーグルス	余田みどり
軟式野球	伊陸ひむろ	大畠うずしおマリーンズ
	柳井ゴールドスターズ	軟式野球 柳北
サッカー	S A ファイターズ	
バスケットボール	新庄ミニバス	柳井バスケットボール
バドミントン	柳井JBC	
バレーボール	柳井S A ポンバーズ	ユナイットJVC

[参考] 柳井市スポーツ協会を構成する21団体

柳井サッカー協会 柳井市合気会 柳井市アーチェリー協会 柳井市空手道連盟
柳井市弓道連盟 柳井市グラウンド・ゴルフ協会 柳井市剣道連盟
柳井市柔道協会 柳井市水泳連盟 柳井市スキー連盟 柳井ソフトボール協会
柳井市テニス協会 柳井市レスリング協会 柳井市バスケットボール協会
バドミントン協会 柳井市バレーboro協会 柳井市フェンシング協会
柳井市野球連盟 柳井市陸上競技協会 柳井ソフトテニス協会 柳井市卓球協会

[参考] 柳井レクリエーション協会を構成する4団体

S A アウトドアクラブ 柳井市アーチェリー協会 柳井市グラウンド・ゴルフ協会
柳井市ソフトバレーboro連盟

[参考]



バタフライアリーナ

愛の6 歴史・伝統の継承と保護

業務の対象	市民	意図(対象をどうしたいのか)	郷土の歴史伝統を身近に感じる機会の提供と、次世代に継承する支援を行う。				
指標7	歴史民俗資料館等での団体及び学校利用回数(回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		15	41	23	11	10	
経費	R 3	R 4	R 5		R 6	R 7	
	40,670 千円	23,796 千円	34,397 千円		40,052 千円		

[主な取組の成果と有効性]

① 地域の文化遺産の保存と活用

- 歴史民俗資料館等施設の活用 [文化財室]
 - ・しらかべ学遊館で「余田租税完納塔」「信川遺跡」の展示
 - ・月性展示館来館者 859 人
- 文化遺産の調査・保全 [文化財室]
 - ・清狂草堂の茅葺屋根及び廊下デッキ（濡縁）板修繕を実施
- 小田家博物館の文化財的価値の再確認のための調査 [文化財室]
 - ・建造物調査・民俗調査・文書調査等を総合的に実施
- 伝統的建造物群保存地区の保存活用事業 [文化財室]
 - ・特定物件 1 件の保存修理、緊急修理 2 件
 - ・国選定 40 周年記念事業として記念講演、スタンプラリー及び写真展示を実施
- 克己堂跡発掘調査
 - ・阿月公民館建設に伴う克己堂跡地の発掘調査取りまとめを実施

② 伝統文化・芸能の保存・継承

- 活動の支援と後継者の育成 [文化財室]
 - ・阿月神明祭顕彰会への補助金交付
 - ・僧月性顕彰会への補助金交付
 - ・伊陸南山神社神楽保存会への補助金交付

<歴史民俗資料館等での団体及び学校利用回数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価7	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	A	A	B	B	
主な理由	・コロナ禍により増えていた県内からの見学者の減少によるもの				

[今後の課題、または改善案]

- ・未指定及び未確認となっている文化財を調査する必要がある。
- ・伝統的な行事や祭り等の開催を支援する。

【基本方針】 1 自分を愛し、人を愛し、郷土を愛する教育の推進
～自己肯定感、他者肯定感、地域肯定感の育成～

愛の7 郷土教材の開発と地域人材による郷土学習

業務の対象	児童、生徒、学校関係者	意図(対象をどうしたいのか)	教職員と保護者、地域住民が連携しながら、地域の文化財や歴史的出来事を生かした教材を開発し、子どもたちが地域の伝統や文化に親しみや誇りを感じるような授業づくりを行う。					
指標8	地域の文化財や歴史的出来事の教材開発(全校)		成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
			14	13	0	0	0	
9	ゲストティーチャーによる授業(全校)		14	13	13	14	14	
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7			
	483千円	0千円	0千円	0千円				

[主な取組の成果と有効性]

※令和5年度から平郡東小学校再開

① 地域の文化財や歴史的事象を生かした教材開発

- 地域の文化財や歴史的出来事の教材開発 [学校教育課]
 - ・令和2年度作成の小学校社会科地域教材「ふるさと柳井」、及び令和3年度改訂の「ふるさと柳井(地図)」を活用し、社会科や総合的な学習の時間において地域学習の充実を図った。
- 文化財の情報発信と活用 [文化財室]
 - ・市文化福祉会館で「郷土史講座」を開催し、6回延べ284人の受講
 - ・社会教育指導員による「郷土史コラム」を、市報に累計12回掲載
 - ・発掘調査(県調査)は、余田「鎧物師屋遺跡、穂原田遺跡」を実施
 - ・発掘調査報告展示(しらかべ学遊館)は、新庄「信川遺跡」を実施

② 生きた歴史を学ぶための、ゲストティーチャーによる授業の実施

- ゲストティーチャーによる授業 [学校教育課]
 - ・地域の人を講師に、『柳井の町』のはなしや地域のまち探検など、地域のよさや特色を学ぶ授業を実施
 - ・小学校の社会科や総合的な学習の時間では、神楽や太鼓など地域の伝統を学ぶ学習や、田植え等の体験型学習等を実施
 - ・中学校総合的な学習の時間では、地域企業で働く方の職業講話等を積極的に実施

<地域の文化財や歴史的出来事の教材開発> [学校教育課]

評価8	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	A	D	D	D	
主な理由	・「ふるさと柳井」、「ふるさと柳井(地図)」の教材開発を令和7・8年度に行う。				

<ゲストティーチャーによる授業> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
9	A	A	A	A	
主な理由	・全校において、学校教育目標や発達段階、教育課程に合った地域のゲストティーチャーを招聘し、特色ある質の高い学習が展開できたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・「ふるさと柳井」、「ふるさと柳井（地図）」を活用していく中で、気付きや課題を蓄積するとともに、教科書改訂の内容も反映しながら、次回の改訂に生かすことが大切である。
- ・「ふるさと柳井」、「ふるさと柳井（地図）」のほかにも、それぞれの学校が地域や児童生徒の実情に応じた教材の活用や開発に努める。
- ・ゲストティーチャーをさまざまな教科の授業で活用できるよう地域との連携を密にし、教育的資源の発掘と情報収集に継続して努める。

[参考]



柳井市古市金屋伝建地区重伝建選定40周年記念講演



町並み資料館ライトアップ（文化財活用例）

【基本方針】 2 夢をはぐくむスクール・コミュニティづくりの推進
～学校、家庭、地域の連携による人づくり、まちづくりの推進～

夢の1 学校運営協議会の機能の強化

業務の対象	学校関係者 学校運営協議会委員	意図(対象をどうしたいのか)	学校運営協議会をさらに充実させ、地域とともにあらる学校づくりを推進する。				
指標10	コミュニティ・スクールの運営に関する教職員対象の研修会等の実施回数(回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		1	2	2	2	2	
経費	R 3 195千円	R 4 194千円	R 5 210千円	R 6 354千円	R 7		

[主な取組の成果と有効性]

- ① 学校、家庭、地域住民の連携と協働に根ざしたコミュニティ・スクールの運営
 - コミュニティ・スクールの運営推進書の作成 [学校教育課]
 - ・各学校においてCS経営案を作成し、年間を見通した組織的な学校運営を図っている。
 - 地域に開かれた学校要覧の作成 [学校教育課]
 - ・学校要覧に、CS経営案や経営方針、学校応援団との協働の様子などを掲載
- ② スクール・コミュニティセンターを中心とした、学校運営協議会の活性化に向けた支援と情報発信
 - 学校運営協議会への支援 [学校教育課、生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・地域学校協働活動推進員や指導主事が、すべての学校の学校運営協議会に参加し、学校や地域の実態を把握したり、スクール・コミュニティだより「こやらい」の中で、市内各校の好事例を紹介したりすることができた。
- ③ 教職員が一体となってコミュニティ・スクールの運営にあたる仕組みづくり
 - 校内体制の整備 [学校教育課]
 - ・地域連携担当教員を校務分掌に位置付け、研修体制を整備
 - ・学校運営協議会委員には、授業を定期的に公開し、助言を受ける場を設定
- ④ 地域住民との交流の拠点となるコミュニティ・ルームの整備・活用
 - コミュニティ・ルームの活用 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・コミュニティ・ルームを地域の活動場所として積極活用し、地域との交流を促進

<コミュニティ・スクールの運営に関する教職員対象の研修会等の実施回数> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
10	A	A	A	A	
主な理由	・「やない教育の日」や、地域連携教育合同研修会を実施し、すべての教職員がスクール・コミュニティを推進する意識を深めることができたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・地域連携担当教員だけでなく、すべての教職員の学校運営協議会への参画意識が高まるよう、研修会等において説明の機会を設定する。
- ・学校、家庭、地域の協働活動への道筋を見出せるよう、県作成のCSハンドブックや研修動画を活用し、その協議内容や進行方法を工夫する。

[参考]



柳東小学校による熟議



大畠中学校による大人の英会話

【基本方針】 2 夢をはぐくむスクール・コミュニティづくりの推進
～学校、家庭、地域の連携による人づくり、まちづくりの推進～

夢の2 学校応援団のさらなる充実

業務の対象	学校関係者、学校応援団員	意図(対象をどうしたいのか)	新たな人材の確保と学校の実情に応じた活動の支援を推進することで学校教育の充実をめざす。				
指標11	各学校の地域コーディネーターとの協議回数(回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		6	5	6	6	5	
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
		258 千円	263 千円	249 千円	244 千円		

[主な取組の成果と有効性]

- ① スクール・コミュニティセンターを中心とした、学校応援団の充実に向けた支援
 - 学校応援団研修会の実施 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・学校と地域をめぐる制度や仕組みに関する研修、本市の取組について協議
- ② スクール・コミュニティセンターによる、学校応援団に関する情報収集と情報発信
 - スクール・コミュニティだよりの発行 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・スクール・コミュニティだより「こやらい」の中で、市内各校の取組事例や、学校と地域をめぐる制度や仕組みについて紹介（学校応援団部分）
- ③ 学校応援団の新たな登録者の募集
 - 新たな学校応援団登録者の募集 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・市報や各学校制作のチラシ募集により、49 団体、1,040 人が登録
 - ・各学校の特色や地域性を生かして、年間延べ 22,647 人が活動
- ④ 校内コーディネーターの活動を支援
 - 地域コーディネーターとの情報交換 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・スクール・コミュニティセンターにおいて、各学校の地域コーディネーターが参加しての活動状況報告や意見交換会を 5 回開催

<各学校の地域コーディネーターとの協議回数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
11	B	A	A	B	
主な理由	・学校運営協議会や地域コーディネーターの集会に参加し、学校と地域の活動把握などの情報共有や情報発信を行うことができたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・スクール・コミュニティだよりを通して、小中学校と地域が連携して取り組んだ活動や、学校応援団のレベルアップに向けた取組などの好事例を共有し支援する。
- ・多様な地域の人材の発掘と、参画に導く機会の提供に取り組む必要がある。

【基本方針】 2 夢をはぐくむスクール・コミュニティづくりの推進
～学校、家庭、地域の連携による人づくり、まちづくりの推進～

夢の3 地域協育ネットの充実

業務の対象	学校、保護者、地域住民	意図(対象をどうしたいのか)	地域ぐるみで子どもの学びや育ちを支援する仕組みづくりや活動を推進する。				
			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
指標12	スクール・コミュニティだよりの発行回数(回/年)	成果指標	3	10	12	13	17
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	1,207 千円	1,234 千円	1,314 千円	1,330 千円			

[主な取組の成果と有効性]

- ① スクール・コミュニティセンターによる、地域協育ネットの活動の充実に向けた支援
 - 地域協育ネット協議会への参加 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・本市職員が、すべての学校の学校運営協議会と協育ネット協議会に参加し、他地域の好事例紹介や、地域連携に関する取組方針等を説明
 - ・地域コーディネーターに対して、課題解決に向けた働きかけの支援
- ② スクール・コミュニティセンターによる、地域協育ネットに関する情報収集と情報発信
 - スクール・コミュニティだよりの発行 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・スクール・コミュニティだより「こやらい」の中で、市内各校の取組事例や、学校と地域をめぐる制度や仕組みについて紹介（地域協育ネット部分）

<スクール・コミュニティだよりの発行回数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価 12	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	A	A	A	A	
主な理由	・成果指標3回/年にに対し、17回/年発行し、市内各校の取組を紹介できたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・成果指標を達成していることから、各学校の取組をさらに充実させることや、スクール・コミュニティセンターの効果的活用などの編成内容の更改を検討する必要がある。

夢の4 幼保小中高連携の強化

業務の対象	幼稚園、保育園（所）、 小学校、中学校、 高等学校	意図（対象をどうしたいのか）	小・中学校の連携を核として幼稚園、保育園（所）、 高等学校との連携を強化することで、将来の地域社会を支える人材の育成に努める。				
指標13	校種間連携を推進する協議会の開催回数 (各協議会1回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		4/4	3/4	3/4	3/4	3/4	
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
		0千円	0千円	0千円	0千円		

[主な取組の成果と有効性]

① 幼保小連携協議会の開催

- 幼保小連携協議会の開催 [学校教育課]
 - ・2月に幼保・小連携に関わる保育士、教諭等を対象とした協議会を1回開催した。
 - ・「やない架け橋期のカリキュラム」を活用した各園（所）と学校の連携の好事例や具体的な取組について共有した。
 - ・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を手掛かりに、5歳児のカリキュラムと1年生のカリキュラムを一体的に捉えることで子どもの育ちへの理解を深め、一貫した指導体制の構築につなげた。

② 小中一貫教育に関する研究の推進

- 小中一貫教育校の授業公開への参加 [学校教育課]
 - ・各学校に、県教委主催の授業公開や附属学校による研究発表会の情報を発信し、連続した9年間の学びについての意識の向上を図った。

③ 校種間連携による教育活動の推進

- 校種間連携を推進する協議会の開催 [学校教育課]
 - ・「柳井地区小中高生徒指導連絡協議会」や「柳井市学校保健委員会」を通して、生徒指導や保健関係についての情報を共有した。
 - ・高校生が小学校を訪問し、交流しながら学ぶ授業が複数校で展開されてきている。

<校種間連携を推進する協議会の開催回数> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
13	B	B	B	B	
主な理由	・校種間連携を推進する中で、カリキュラムの活用や連携した活動等、具体的な動きができたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・幼、保、小、中、高の教職員がお互いを知り、さらに連携体制を強化することが必要である。
- ・幼保小連携については、すべての園（所）、小学校で「やない架け橋期のカリキュラム」を活用しながら活動を見直すことで、内容の改善を図ることができる。

夢の5 家庭教育の教育力を高めるための支援の強化

業務の対象	学校、保護者	意図(対象をどうしたいのか)	家庭を支える多様なネットワークづくりをとおして、家庭の教育力を高める。				
指標 14	目標の成果を検証するアンケートの実施回数(回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		2	2	2	2	2	
15	保護者を対象にした研修会の開催回数(回/年)	6	6	7	5	4	
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	53 千円	34 千円	41 千円	30 千円			

[主な取組の成果と有効性]

① 家庭の教育力を高めるための支援の充実

- 家庭教育支援チーム員の育成 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・県教委主催「家庭教育アドバイザー養成講座」の参加支援や、保護者を対象とした講座実施のための研修を実施

② 家庭児童相談員及び少年安全サポーターの配置

- 少年安全サポーターの活用 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・各小中学校における防犯指導・訓練を実施

③ 家庭や地域社会、異校種と連携した多様な体験活動の充実

- 地域の行事等への参画の働きかけ [学校教育課]
 - ・地域の祭りや清掃活動、交流行事へ参加することを通して、子どもたちが地域の一員としての自覚を高めることができた。
 - ・米づくりや伝統芸能の継承、職場体験など学校と地域との連携した活動により、実体験を通した学びの実感や充実を図ることができた。

④ 学校、家庭、地域の連携による「学びのサイクル」の確立 【志の1④】

- 学びのサイクルの質的な向上 [学校教育課]
 - ・休日や長期休業期間において、異校種の生徒や地域の方が教師役を務める地域主催の学習会を実施し、学校での学びを家庭・地域とつなげることができた。

⑤ 家庭教育支援に係る情報提供や保護者間の人間関係づくりの機会の充実

- 保護者を対象にした研修会の開催 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・保護者同士の人間関係づくりを目的とした「グループワークショップ研修」を開催、10校166人参加

<目標の成果を検証するアンケートの実施回数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
14	A	A	A	A	
主な理由	・保護者や地域へのアンケートを計画通り行うことができたこと。				

<保護者を対象にした研修会の開催回数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
15	A	A	B	B	
主な理由	・成果指標6回/年に対し、4回/年の研修会を開催し、研修後のアンケートでは、その内容に対し、9割を超える肯定的な回答を得たこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・保護者の多様な人間関係が形成できるよう、家庭教育に関する保護者の講座を通して働きかける。
- ・山口県教育委員会主催「家庭教育アドバイザー養成講座」への参加を促し、保護者の子育てに関する不安や悩みを軽減する地域人材を育成する。

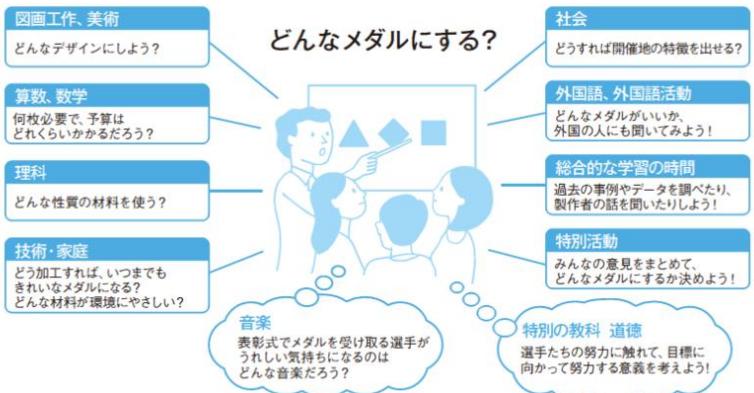
[参考]

学びを人生に生かすために



同じ物事でも、
教科ごとに多様な捉え方をします。

例えば、「オリンピック・パラリンピックのメダルづくり」というテーマで考えてみると...



The diagram illustrates how various school subjects contribute to the theme of medal design:

- 国画工作、美術**: どんなデザインにしよう?
- 算数、数学**: 何枚必要で、予算是どれくらいかかるだろう?
- 理科**: どんな性質の材料を使う?
- 技術・家庭**: どう加工すれば、いつまでもきれいなメダルになる? どんな材料が環境にやさしい?
- 社会**: どうすれば開催地の特徴を出せる?
- 外国語、外国語活動**: どんなメダルがいいか、外国人の人にも聞いてみよう!
- 総合的な学習の時間**: 過去の事例やデータを調べたり、製作者の話を聞いたりしよう!
- 特別活動**: みんなの意見をまとめて、どんなメダルにするか決めよう!
- 音楽**: 表形式でメダルを受け取る選手がうれしい気持ちになるのはどんな音楽だろう?
- 国語**: このような話合いや説明資料の作成にも、国語を要とする全ての教科等の学び(言語活動)が生かされています。
- 特別の教科 道徳**: 選手たちの努力に触れて、目標に向かって努力する意義を考えよう!

学びを人生に生かすために 文部科学省

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/_icsFiles/afieldfile/2020/01/28/20200128_mxt_kouhou02_01.pdf

【基本方針】 2 夢をはぐくむスクール・コミュニティづくりの推進
～学校、家庭、地域の連携による人づくり、まちづくりの推進～

夢の6 放課後子ども教室の充実

業務の対象	児童	意図(対象をどうしたいのか)	子どもの遊び場としての放課後子ども教室の充実を推進する。					
指標 16	放課後子ども教室の開催回数(回/年)		成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
				24	4	13	10	9
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7			
	0千円	0千円	2千円	2千円				

[主な取組の成果と有効性]

① しらかべ学遊館による放課後子ども教室の実施

- 放課後子ども教室の開催 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・昔の遊びや、ものづくり、べんきょう会等の体験活動を6回開催

② 学校を単位とした放課後子ども教室の実施

- 各学校における放課後子ども教室の開催 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・昔の遊びやものづくり等の体験活動を3回開催

<放課後子ども教室の開催回数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価 16	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	D	C	C	C	
主な理由	・成果指標24回/年に対し、9回/年の開催となったこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・開催する地域の実情に応じたプログラムを展開する必要がある。
- ・中高生の学習ボランティアの応募が多いため、その活用方法を検討し、学習会での役割分担など工夫して、引き続き有効活用を図る。

志の1 「確かな学力」の育成

業務の対象	児童、生徒、学校関係者	意図(対象をどうしたいのか)	学校の組織的な取組の軸として、家庭、地域が連携して子どもたちの基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等、そして主体的に学習に取り組む態度などの資質・能力を育成する。				
成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
指標17 校内外に向けた授業公開	14	13	13	14	14		
経費	R 3 0 千円	R 4 0 千円	R 5 17,609 千円	R 6 17,554 千円	R 7 		

[主な取組の成果と有効性]

※令和5年度から平郡東小学校再開

① 学習指導要領の着実な実施

- カリキュラム・マネジメント [学校教育課]
 - ・中学校区や各校の熟議の中で、「学校・地域連携カリキュラム」の見直しを実施
- 学習の基盤となる力の育成 [学校教育課]
 - ・中学校区の研修会や市教委主催の授業研究会に、異校種教職員も参加しやすい形にすることで、様々な視点から授業改善に向けた協議の充実を図った。
 - ・学びのサイクルを意識した授業づくりを、市内全校において実践している。
- 年間授業時数の確保 [学校教育課]
 - ・すべての学校で「年間指導時数」を確保し、授業を実施
- 算数・数学の基礎・基本の確実な習得 [学校教育課]
 - ・積み上げの教科であり、つまずきが多く見られやすい小学3・4年生の算数科の授業に特定教科補助教員を市独自に配置し、少人数できめ細やかな指導を通して、学習内容の定着を図った。
 - ・一人一台端末にA I ドリルを導入（小2～中3）し、一人ひとりの学習ペースや理解度に応じた個別最適な学びの充実を図った。

② アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善

- 校内外に向けた授業公開 [学校教育課]
 - ・「学びのサイクル」確認シートを活用し、共通の視点から授業づくりの指導を実践
 - ・授業公開の情報を市内各校と学校教育課職員、教育委員等と共有して参観を促すことで、幅広い視点からの授業評価を実施

③ データに基づいた着実なPDCAサイクルの実施

- 学力向上担当を集めた研究集会の実施 [学校教育課]
 - ・本市が取り組む施策の共通理解と、各校の学力向上への取組についての実践事例を共有
 - ・学力向上担当の役割について、協議を通して組織的な取組を振り返るなど、担当者への意識向上を図った。
 - ・学力向上研究集会を年2回実施

④ 学校、家庭、地域の連携による「学びのサイクル」の確立 【夢の5④】

○ 学びのサイクルの質的な向上 [学校教育課]

- ・休日や長期休業期間を利用し、小学生対象に中高生が教師役を務めた学習会を実施し、学校での学びを家庭・地域とつなげることができた。
- ・学びのサイクルの取組を充実するため、学校と家庭、地域が課題等について共有することができた。また、1人1台タブレットを効果的に活用するなど、家庭学習のあり方についても工夫改善を行った。

⑤ 読書活動の充実

○ 学校図書館の整備 [学校教育課]

- ・学校司書と司書教諭を中心として行う読書指導や小学校における「図書の時間」における読み聞かせをとおして、学校図書館活用の促進が図れた。
- ・展示する本の種類や配置を工夫したり、委員会活動等において企画コーナーを設置したりするなど、児童、生徒と共に図書の環境づくりに工夫が見られた。

<校内外に向けた授業公開> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
17	A	A	A	A	
主な理由	・すべての学校が校内外に向けた授業公開を行い、幅広い視点からの気づきを共有できること。				

[今後の課題と改善案]

- ・学校内における地域の人の活動の場や学びの場を設けることが増えてきたので、今後さらにそうした場面を増やしていく。

[参考]



柳井小学校授業研究

志の2 「豊かな心」の育成

業務の対象 指標 18	児童、生徒、学校関係者 道徳授業セミナーや各種研修会への参加や授業公開（全校）	意図（対象をどうしたいのか） 成果指標	学校、家庭、地域が連携しながら、学校の教育活動全体を通じた道徳教育に関する取組を工夫・改善する。				
			R 3 14	R 4 13	R 5 13	R 6 14	R 7
経費	R 3 0千円	R 4 0千円	R 5 0千円	R 6 0千円	R 7		

[主な取組の成果と有効性]

※令和5年度から平郡東小学校再開

① 道徳科の授業における「考え、議論する道徳」への質的変換

- 「考え、議論する道徳」の実現に向けた指導 [学校教育課]
 - ・県教委主催「道徳セミナー」の参加と、不参加の学校への資料共有を行い、道徳教育の充実に向けて授業観の変換を意識づけることができた。
 - ・県教委作成「考え、議論する道徳」を基にした、授業づくりのポイントによる振り返りや各学校における道徳科の授業実践をとおして、授業力向上を図った。

② 豊かな心をはぐくむための体験活動の充実

- 体験活動の年間指導計画への位置づけ [学校教育課]
 - ・社会奉仕に関わるボランティア体験活動や、文化・芸術体験活動などをとおして、社会貢献を体感したり、実体験による学びを得たりすることができた。
(ぶどう栽培体験、神楽体験、剣舞体験など)

<道徳授業セミナーや各種研修会への参加や授業公開> [学校教育課]

評価 18	R 3 A	R 4 A	R 5 A	R 6 A	R 7
	・全学校とも、各種研修会への参加し、授業改善を図るとともに、参観日等の道徳科授業の公開による家庭との連携の充実を図れたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・道徳科を重点的に校内研修のテーマに設定している学校は多くないので、全教職員の意識が高まるよう、令和7年度推進校となる大畠小学校の実践事例を紹介していく。

志の3 「健やかな心」の育成

業務の対象	児童、生徒	意図(対象をどうしたいのか)	健やかな体をつくり、安全・安心を確保する。				
指標 19	新体力テスト等のデータによる柔軟性	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		全国平均を上回る	男 4/13 女 3/13	男 4/13 女 8/13	男 3/13 女 7/13	男 6/13 女 7/13	
20	食育のための巡回訪問の回数(回/年・校)	1	8/13	14/13	20/14	25/14	
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	0千円	0千円	0千円	0千円			

[主な取組の成果と有効性]

① 体力向上の推進

- 柔軟性の向上 [学校教育課]
 - ・各学校が作成した「体力向上レポート」を基に、体力の向上や運動習慣の改善に向けた好事例を共有し、市の体力状況について、成果と課題を各校へ周知を行った。
 - ・新体力テストの柔軟性が全国平均を上回った学校は、男子が6校、女子が7校と柔軟性の向上が見られるが、市全体としては男女ともに国の平均を少し下回っている。

② 学校保健の充実

- 課題に即した学校保健活動 [学校教育課]
 - ・学校保健委員会を2回開催し、小・中・高等学校の連携課題について意見共有
 - ・学校保健委員会のブロック研修にて、掲げた議題の取組結果を報告書に整理し発行

③ 食育の充実

- 食育のための巡回訪問 [学校給食センター]
 - ・栄養教諭による食育指導（小学校7校、中学校1校において延べ25回実施）
 - ・自分で食品を選択、調理、食事ができるよう、食の自立を目的とし、学年に合わせた指導を行った。
- お弁当日の推奨 [学校教育課]
 - ・「マイランチデー」と位置づけ、年3回のお弁当の日を市内全ての中学校で実施。併せて、生徒の委員会活動等と協同し、写真の展示や表彰企画を行い、食育への関心を高めた。
- 中学校給食費の無償化 [学校給食センター]
 - ・中学校生徒保護者の経済的負担軽減のため、柳井市学校給食会へ給食費相当額を補助
 - ・アレルギーにより弁当持参の生徒保護者には、公平性を図るために給食費相当額を補助

④ 安全教育の推進

- 危険予測学習の実施 [学校教育課]
 - ・全学校において、防犯、地震、火災に係る避難訓練と生活安全・交通安全・災害安全等の

安全学習を実施した。

・「学校安全取組状況調査」を基に、安全教育への取組について指導・助言を行った。

<新体力テスト等のデータによる柔軟性> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
19	D	C	D	C	
主な理由	・対象校 26 校のうち、全国平均を上回る学校が 10 校から 13 校に増加したこと。				

<食育のための巡回訪問の回数> [学校給食センター]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
20	C	C	C	C	
主な理由	・全 14 校中、8 校での実施となったこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・柔軟性の向上は、各校において体育の準備運動等で継続して取り組み、成果が上がった学校もあるが、市全体の平均値は男女ともに全国平均を下回っている。柔軟性以外にも課題のある握力について、強化運動例や他校の取組を共有したりし、改善を図っていく。
- ・中学校での「お弁当の日」の実践を小学校に展開し紹介することで、児童の主体的な食習慣の形成を後押しした。
- ・1 年間で全学級を巡回訪問することは、時間的制約から困難なため、各校と日程を調整し、実施可能な学校で対応している。あわせて、食育動画や ICT 教材などを積極的に活用し、児童が実感を伴って学べる指導を推進する。また、柳井市小中学校教職員クラスルームを活用して、食に関するお知らせや教材情報の共有を行い、校内での食育の充実につなげている。

[参考]

学校給食での、地産地消の推進

毎月 1 回、山口県の郷土料理「けんちょう」を提供するとともに、献立表などで紹介しています。また、「やまぐち・やないふるさと食材の日」として、県産、柳井産の食材を使った給食を提供しています。



「けんちょう」と県産あじのカレー醤油焼き

4 金	むぎごはん 	きびなごフライ とうがんじる れいとうみかん	とりにく あぶらあげ	ざゅうにゅう きびなご
7 月	えだまめ ゆかりごはん 	たここんだて ごもくたまごやき かわほんじしる	たまご どうふ うおそうめん	ざゅうにゅう
8 火	むぎごはん 	わらびもち けんさんあじのカレーしょうゆやき けんちょう のりつくだい	きなこ あじ とりにく とうふ あぶらあげ さつまあげ のり	ざゅうにゅう
9 水	コッペパン 	やないリーフレタスシチュー ひじきサラダ	ペーパー ^③ どうにゅう とりにく	ざゅうにゅう ひじき
		山口県の郷土料理		

地産地消を紹介した献立表の一部

志の4 キャリア教育の推進

業務の対象	児童、生徒	意図(対象をどうしたいのか)	志や夢を持ち、人間力と社会力を兼ね備えた社会人・職業人として自立できる				
			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
指標21	「二分の一成人式」や「立志式」の実施(学年別)	成果指標	13	13	13	13	
22	「学校・地域連携カリキュラム」の作成(全校)	14	13	13	14	14	
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	11千円	13千円	11千円	11千円			

[主な取組の成果と有効性]

※令和5年度から平郡東小学校再開

① 立志の教育の推進

- 「二分の一成人式」や「立志式」の実施 [学校教育課]
 - ・対象学年が在籍する学校すべてにおいて、「二分の一成人式」や「立志式」を実施
 - ・生徒が、ふり返りと将来の見通しを繰り返すキャリア教育の視点をもって行事に参加し、自己の生き方を考えるきっかけとともに、地域愛を醸成することができた。

② 教育活動全体をとおしたキャリア教育の推進

- キャリア・パスポートの利用 [学校教育課]
 - ・小中高12年にわたる毎年の活動記録を蓄積することで、自己の成長を振り返りながら将来を見通したキャリア形成につなげている。

③ 家庭や地域社会、異校種と連携した多様な体験活動の充実

- 地域行事等への参画の働きかけ [学校教育課]
 - ・地域行事にボランティアとして参画する児童生徒が着実に増えている。

<「二分の一成人式」や「立志式」の実施> [学校教育課]

評価 21	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	A	A	A	A	
主な理由	・全学校で「二分の一成人式」と「立志式」を実施することができたこと。				

<「学校・地域連携カリキュラム」の作成> [学校教育課]

評価 22	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	A	A	A	A	
主な理由	・全学校で「学校・地域連携カリキュラム」を作成し、見直していること。				

[今後の課題と改善案]

- ・各学校とも「学校・地域連携カリキュラム」を児童生徒や保護者、地域など、様々な立場からの意見も取り入れながら定期的に見直し、ブラッシュアップしていく必要がある。

志の5 特別支援教育の充実

業務の対象 指標 23	教職員 「柳井市特別支援教育推進週間」の実施回数 (全校実施2回/年)	意図(対象をどうしたいのか) 成果指標	1人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を推進する ことができるようとする。				
			R 3 2	R 4 2	R 5 2	R 6 2	R 7
経費	R 3 64千円	R 4 64千円	R 5 64千円	R 6 64千円	R 7		

[主な取組の成果と有効性]

① 相談支援体制の充実

- 専門家会議の開催 [学校教育課]
 - ・市内 12 ある幼稚園・保育園（所）へ市家庭児童相談員、市保健師と一緒に巡回訪問を行い意見交換することで、特別な教育的支援を要する子どもの早期発見と早期支援につなげた。
【志の7①】
 - ・7月と12月の2回、「柳井市教育支援委員会」を開催し、医学的・教育的な視点から、総合的に児童生徒に適した就学先について協議を行った。

② インクルーシブ教育システムの構築

- 特別支援教育推進週間の設定 [学校教育課]
 - ・全学校で、特別支援教育の視点を意識する取組として、6月は「教室環境づくり」と「学級経営」、11月は「授業づくり」をテーマに各1週間ずつ実施し、学習環境や指導方法、教材について見直す機会を創出し、改善につなげた。

③ 関係諸機関との連携の充実

- 要請訪問の活用 [学校教育課]
 - ・特別支援教育センターや、視覚・聴覚障害教育センターの地域コーディネーターを講師に招いた要請訪問を計 22 回実施した。授業参観、教育相談、ケース会議及び校内研修等において、専門的な立場から具体的な指導、助言を得た。

④ 教職員の指導力の向上

- 校内コーディネーター研修会の開催 [学校教育課]
 - ・5月に柳井地域 1 市 4 町で「柳井地域特別支援教育校内コーディネーター研修会」を実施し、各校の校内コーディネーターに対して、特別支援教育の最新情報と方向性について情報を共有した。
 - ・田布施総合支援学校の地域コーディネーターを講師として、校内コーディネーターの役割について研修を実施した。

<「柳井市特別支援教育推進週間」の実施回数> [学校教育課]

評価 23	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	A	A	A	A	
主な理由	・全学校において年2回の推進週間を実施し、特別支援教育の視点に立った学習環境や指導方法、教材の見直し・改善につながったこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・県教委作成のチェックリスト「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用に向けた確認事項」を基に、各校の実態に応じた重点項目を精選し取り組んでいく必要がある。

[参考] 特別支援を要する学習環境の種別(R7.3.31)

	通常学級	通級指導	特別支援学級	特別支援学校
指導内容	個々の障害に配慮しつつ通常の教育課程に基づく指導	通常学級に在籍しつつ、一部別に障害に応じての指導	障害に応じての教育課程に基づく指導	障害に応じての教育課程に基づく指導
対象	学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)、高機能自閉症(HFA)、その他発達障害の可能性のある児童生徒	言語障害、情緒障害、学習障害、弱視・肢体不自由等の障害により、一部別に指導を要する児童生徒	知的、弱視・肢体不自由・難聴等の障害により、通常学級では学習が困難な児童生徒	知的、弱視・肢体不自由・難聴等の障害により、通常学級では学習が困難な児童生徒
指導要領	小・中学校学習指導要領	小・中学校学習指導要領	小・中学校学習指導要領	特別支援学校学習指導要領
設置状況	市内 14 校	柳井小(ことばの教室)、新庄小、柳東小(巡回指導)	市内 11 校	田布施総合支援学校、周南総合支援学校、山口南総合支援学校、下関南総合支援学校等

志の6 生徒指導の充実

業務の対象 教職員	意図(対象をどうしたいのか)	いじめや不登校等の課題に対応できる指導力の向上を図る。					
		成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
指標 24	「柳井市いじめ問題研修会」の開催回数(回/年)	1	1	1	1	1	
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	600 千円	600 千円	573 千円	662 千円			

[主な取組の成果と有効性]

① 相談支援体制の充実

- スクール・ソーシャルワーカーの配置 [学校教育課]
 - ・ 4人のSSWを4校の小・中学校に派遣し、122日150時間稼働した。
 - ・ 問題を抱える児童生徒へ働き掛けを要する事案が12件、新規事案が7件

② SNSトラブルへの新たな取組の推進

- 中学生主体の研修会の開催 [学校教育課]
 - ・ 7月に柳井警察署と共に「少年リーダーズサミット」へ市内中学校の代表が参加した。スマートフォンやアプリ、SNSの使い方から、「使用する上での注意やルール」を生徒自身が協議しながら作り出し、各校での啓発活動に生かした。

③ 関係機関との連携の充実

- 「要保護児童対策地域協議会」での情報共有 [学校教育課]
 - ・ 不登校、児童虐待、家庭の問題及び発達障害等、個別のニーズや課題に応じた構成メンバーを選定し、児童生徒一人ひとりを丁寧に支える体制を確保している。適応指導教室(しなやかスクール)では、不登校等の児童生徒を支えるメンバーの連絡会を継続的に実施した。

④ 教職員の指導力の向上

- 「柳井市いじめ問題研修会」の開催 [学校教育課]
 - ・ 6月に「生徒指導主任研究集会兼いじめ問題研修会」を開催し、いじめの認知と早期対応について学んだ。
 - ・ 柳井市SSWを講師として「各校のいじめ対応の具体」について協議・研修を実施した。

<「柳井市いじめ問題研修会」の開催回数> [学校教育課]

評価 24	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	A	A	A	A	
主な理由	「柳井市いじめ問題研修会」の開催により、各校のいじめ対応の取組が推進できたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・ 増加傾向にあるいじめや不登校児童生徒の課題に対して、未然防止の取組を適時効果的に

行っていく必要がある。

また、継続して、適応指導教室（しなやかスクール）の体制の充実を図るとともに教育相談窓口として役割を拡大する必要がある。

[参考]

柳井市教育委員会は、子どもたちに安心できる過ごしやすい居場所を提供し、一人ひとりの状況に応じた相談・指導・助言を行い、情緒の安定、生活習慣や基礎学力の定着、社会性の向上を目指すために、柳井市適応指導教室「しなやかスクール」を開設しています。

しなやかスクールでは、「学校と家庭の中間の場としての自立支援」「児童生徒の状況に応じた学習支援や体験活動」「児童生徒の問題解決や不安解消のための教育相談支援」を行っています。



しなやかスクール



個別学習スペース

志の7 幼児教育の充実

業務の対象	幼稚園・保育園（所）、 小学校	意図（対象をどうしたいのか）	幼児期における子どもの育ちを十分に把握し、連携の推進を図る。				
			成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6
指標 25	「保育・幼児教育体験」の実施回数（回/年）	1	1	1	1	1	
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	0千円	0千円	0千円	0千円			

[主な取組の成果と有効性]

① 連携体制の充実

- 幼稚園・保育園（所）への巡回訪問 [学校教育課]
 - ・地域コーディネーター、保健師、家庭児童相談員及び指導主事で構成する「柳井市特別支援専門家チーム」を設置し、市内 12 ある幼稚園・保育園（所）に巡回訪問を実施した。
 - ・9月に「就学予定児童連絡協議会」を開催し、巡回訪問後の情報整理や市教育支援委員会への意見集約を行い、特別な教育的支援を要する子どもの早期発見・早期支援につなげた。

② 交流機会の促進

- 交流機会の確保 [学校教育課]
 - ・8月に教員8人が、7か所の幼稚園・保育所（園）の「保育・幼児教育体験」に参加し、園生活の体験や園児との触れ合いから、学校生活における指導の工夫・改善につなげた。

<「保育・幼児教育体験」の実施回数> [学校教育課]

評価 25	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	A	A	A	A	
主な理由	・各園の協力により、予定通り実施でき、小学校教員の参加者が増加したこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・5歳児のカリキュラムと1年生のカリキュラムを一体的に捉えた「やない架け橋期のカリキュラム」を活用した取組を充実させていく必要がある。

志の8 教職員の資質向上

業務の対象 指標 26	児童、生徒、学校関係者 「克己堂」の開催 (全校)	意図(対象をどうしたいのか)	保護者や市民の信頼に応え、学校課題に適切に対処し、1人ひとりの子どもを伸ばすことができる教職員の育成をめざす。				
		成果指標 14	R 3 13	R 4 10	R 5 12	R 6 17	R 7
経費	R 3 0千円	R 4 0千円	R 5 0千円	R 6 0千円	R 7		

[主な取組の成果と有効性]

※令和5年度から平郡東小学校再開

① 多様な教育課題に対する力を付けるための研修の充実

○ 多様な教育課題に対応する研修会の開催 [学校教育課]

- ・「ICT活用研修会」を実施し、市内小中学校の全ての情報教育担当者で研修を行った。内容を年度内で活用できるよう、昨年度同様開催時期を1月から10月へと前倒しした。
- ・「柳井市ICT活用推進プロジェクトチーム(YIP)」の回数を増やし、年6回実施。ICT支援員を加えた6人体制で、現場のニーズや課題に即した柔軟な提案が可能となった。

② キャリアステージに応じた研修の充実

○ 人材育成の研修会開催 [学校教育課]

- ・柳井地域（柳井市・平生町・田布施町・上関町・周防大島町）の小・中学校新規採用教員向け（第2期地区別オンライン）研修講座を、柳井市役所を拠点として開催した。
- ・ミドルリーダーが授業公開や運営を務めた「克己堂」授業研究会を17回開催し、特に、アクティブラーニングの視点に立った授業改善について協議した。

③ 質の高い学習指導を実現するための研修の充実

○ 「克己堂」授業研究会の開催 [学校教育課]

- ・主体的・対話的で深い学びのある授業づくりを目的に17回開催し、子どもたちの学びの振り返りを共通の視点として協議することで意識の向上を図った。延べ461人参加
- ・他校の授業研究会には必ず1人1回以上参加することとし、校内研修の活性化を図った。

④ 子どもや保護者と向き合う時間を確保するための業務改善の推進

○ コミュニティ・スクール運営推進書の位置付け [学校教育課]

- ・コミュニティ・スクール経営案を運営推進書として活用し、取組につなげている。

<「克己堂」の開催> [学校教育課]

評価 26	R 3 A	R 4 A	R 5 B	R 6 A	R 7
主な理由	・すべての学校で「克己堂」授業研究会を開催しただけでなく、複数回の授業公開を行う学校が増えたため。				

[今後の課題と改善案]

- ・研修の意義や様子を周知するなどして、全学校における開催を進めていきたい。
- ・教職員の授業研修がより深まるよう実施内容等について随時改善を進めていく必要がある。

[参考] 主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について



文部科学省国立教育政策研究所

https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_seika/r02/r020603-01.pdf



柳井西中学校

4-(1) 情報発信の充実

業務の対象	市内外全般	意図(対象をどうしたいのか)	本市の教育環境と活動、これからめざす教育の姿をわかりやすく伝える。				
指標 27	市ホームページの更新頻度(回/月)		成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6
			1	1.67	1.63	1.83	2.06
28	指導主事の学校訪問による情報発信サポート(回/月)		1	1	1	1	1
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	0千円	0千円	0千円	0千円			

[主な取組の成果と有効性]

① 市ホームページの充実

- 市ホームページの更新 [教育総務課]
 - ・更新(回/月)は教育総務課 1.6 回、学校教育課 0.9 回、生涯学習・スポーツ推進課 3.7 回、文化財室 0.1 回、柳井図書館 4.0 回、サンビームやない 2.3 回、給食センター 1.8 回

② 各小・中学校による情報発信の充実

- 学校へのサポート [学校教育課]
 - ・スクール・コミュニティの概要や、各校の特色ある取組、全国学力・学習状況調査の結果等の情報を随時提供
- 興味・関心のあるホームページの開設 [学校教育課]
 - ・経営方針や学校行事、学校だより、地域情報等の随時発信と、内容の充実に関する助言・支援を行っている。

<市ホームページの更新頻度> [教育総務課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
27	A	A	A	A	
主な理由	・更新頻度に差はあるものの、月平均2回に近づく更新結果となったこと。				

<指導主事の学校訪問による情報発信サポート> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
28	A	A	A	A	
主な理由	・担当指導主事制度のもと、各学校に継続的に訪問し、情報収集と発信に努めたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・ページの意図が簡単に読み取れるよう、内容がわかりにくい表示は避ける必要がある。
- ・定期的に更新され、タイムリーな情報提供となっているか随時確認することが必要である。

4-(2) 安全で快適な学びの環境づくり

業務の対象	児童、生徒、学校関係者	意図(対象をどうしたいのか)	安全で快適な施設・設備の整備により、安心して学べる教育環境を提供する。				
指標 29	学校施設非構造部材の耐震化率(%)		成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6
			100	78.6	85.7	85.7	78.6
30	通学路の合同点検(回/年)		1	2	1	1	3
経費	R 3	R 4	R 5		R 6	R 7	
	203,286 千円	225,803 千円	213,118 千円		111,779 千円		

[主な取組の成果と有効性]

① 学校施設の安心・安全な教育環境の確保

- 学校施設の改修 [教育総務課]
 - ・大畠小学校バリアフリー改修、柳井小学校インターロッキング改修、小学校遊具改修、小中学校防火区画設備改修、柳井中学校管理棟・作法室屋根改修等を実施

② 教育環境の質的向上

- 教育環境の改善 [教育総務課]
 - ・柳井小学校理科室①②、柳北小学校音楽室、柳井南小学校理科室、小田小学校多目的室、大畠小学校理科室、大畠中学校金工・木工室に空調機を設置
 - ・大畠中学校屋内運動場トイレ（和5→洋4）の洋式化改修、小田小学校多目的トイレ改修（ウォシュレット暖房便座）

③ 通学の安全対策の推進

- 通学路の合同点検 [教育総務課]
 - ・国、県、市の道路管理者、警察、学校等により柳井市通学路安全推進会議を開催
 - ・改善要望箇所のうち新規分について、関係者による現地合同点検を実施
- 遠距離通学への支援 [教育総務課]
 - ・小、中学校4校10台のスクールバスを運行。対象の児童生徒数は144人（日積小、柳井南小、大畠小、柳井中）
 - ・路線バスの廃止に伴い、スクールタクシーを運行。対象の児童数は2人（柳北小）

④ 安心安全メールシステム

- 安心安全メールシステム [学校教育課]
 - ・県や市の安全情報を得た際には、各学校へ周知を行い、各校の安心安全メールで、防犯や災害、鳥獣に関する情報が隨時配信されるようにしている。

<学校施設非構造部材の耐震化率> [教育総務課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
29	B	B	B	B	
主な理由	・未施工箇所が3か所あること。				

<通学路の合同点検> [教育総務課]

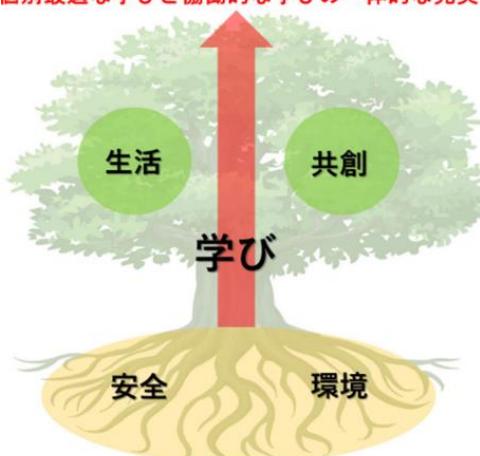
評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
30	A	A	A	A	
主な理由	・現地において、関係者による合同点検を1回実施したこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・校舎の耐震化率は、令和元年度末で 100%達成済。非構造部材の耐震化未施工分は伊陸小屋内運動場、大畠小校舎及び大畠中武道場の3か所で、うち伊陸小屋内運動場は、令和6年度に実施設計を行い、7・8年度に改修工事を予定し、大畠小校舎は、令和7年度に実施設計、8年度に外壁改修工事を予定している。
- ・普通教室棟のトイレの洋式化は、全小学校を令和2年度末、柳井中を令和5年度に改修を完了した。また、大畠中屋内運動場を令和6年度に実施し、柳井西中1階と屋内運動場を令和7年度に予定している。
- ・令和4年2月、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「柳井市ゼロカーボンシティ」の実現に向けた挑戦を開始する宣言をしている。施設整備、運営の観点から、削減に取り組む必要がある。

[参考]

全ての子供たちの可能性を引き出す、
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実



新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方
(5つの姿の方向性)

https://www.mext.go.jp/content/20220328-mxt_sisetuki-000021509_1.pdf

4-(3) 学校の適正規模・適正配置

業務の対象	児童、生徒、地域住民	意図(対象をどうしたいのか)	地域の実態に配慮しつつ、一定の教育の機会均等や教育水準の維持向上を確保する。		
この項目の指標は定めていない。					
経費	R 3 3,687 千円	R 4 3,590 千円	R 5 3,519 千円	R 6 3,232 千円	R 7

[主な取組の成果と有効性]

① 学校の適正規模・適正配置

- 適正規模・適正配置の検討 [教育総務課]
 - ・児童生徒の推移や地域の状況等の把握

② 廃校跡地の活用

- 廃校跡地の有効活用の検討 [教育総務課]
 - ・旧神西小、旧遠崎小、旧平郡西中、旧日積中、旧伊陸中、旧柳井南中の6校
 - ・旧神西小は、平成31年3月からビジコム柳井ラボ・サテライトオフィスとして貸付
 - ・旧阿月小は、跡地に阿月出張所・公民館を整備(令和6年度完成)
 - ・旧柳井南中は、跡地に伊保庄地区コミュニティ施設の整備及び特別養護老人ホーム伊保庄園の移転等を検討

[今後の課題と改善案]

- ・規模にかかわらず、標準的な教育の機会と水準を確保する必要がある。
- ・児童生徒の減少がこれからも進む状況において、目の行き届いた指導や多様な学習機会の損失など、児童生徒にとっての、また、学校運営上にとってのプラス面マイナス面を改めて確認し、協議していく必要がある。

今日のウェルビーイングの考え方とは、授業以外の場面も含めて児童生徒一人一人が満ち足りた学校生活をおくるためのコンセプトである。場面や機能を分けて個々に対応するのではなく、学校生活全体の調和を重視し、包括的・統合的・全人的に捉える指針であり、質的充実がむしろ学習の基盤として必要であることを強調するするものであるといえる。

『ウェルビーイング向上のための学校施設づくりのアイディア集』
令和6年9月、学校施設の在り方にに関する調査研究協力者会議
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/066/toushin/mext_01888.html

4-(4) ICT環境の整備・充実

業務の対象	児童、生徒、教職員	意図(対象をどうしたいのか)	多様な子どもたちを誰一人残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する。		
この項目での指標は定めていない。					
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	51,440 千円	36,522 千円	48,449 千円	44,826 千円	

[主な取組の成果と有効性]

① ICT学習環境整備の推進

○ 教育DXに係るKPIの実現 [教育総務課][学校教育課]

- ・令和3年3月、児童生徒および教職員に学習用タブレット端末を配付し、普通教室には無線LAN環境を整えた。
- ・自宅にインターネット環境がない家庭には、貸出可能なモバイルWi-Fiルーターを準備し対応した。
- ・令和4年5月から、児童生徒・保護者・教職員の問い合わせに対応する一括対応型のヘルプデスクを設置（電話、メール、専用フォーム、チャットボット等）
- ・児童生徒が家庭で、振り返りや個々の発達段階に応じた学習を進められるよう、端末の持ち帰りを実施した。
- ・アプリ：ミライシードを朝学や授業の振り返りのほか宿題で活用し、令和6年度からは、外国語の教師用、児童用のデジタル教科書を活用するなど、ソフト面の整備充実を図った。

○ 山口県統合型支援システムの整備運用 [教育総務課][学校教育課]

- ・令和6年4月から、成績処理、出欠管理、授業時数管理等の教務系と、健康管理等の保健系、指導要録等の学籍系の機能を有する「山口県統合型支援システム」を県市町共同調達で導入し、現場の声を聞きながら市の運用ルールを模索している。

○デジタルリテラシーの向上 [教育総務課][学校教育課]

- ・柳井市ICT活用研修会で、各小中学校の情報教育担当者を対象に情報モラルについての研修を行った。

○学校内Wi-Fi環境の充実 [教育総務課][学校教育課]

- ・柳井中学校屋内運動場にWi-Fi整備

[今後の課題と改善案]

- ・山口県統合型校務支援システムの円滑な運用に向けて、学校現場の声をできるだけヘルプデスクに届けることを推奨している。
- ・教育データ活用によるエビデンスに基づいた学校教育の変革等、デジタル技術とデータを活用して教育DXの推進を加速する必要がある。
- ・タブレットの更新に際し、前回同様に県内市町共同調達に向け、山口県ICT協議会等において協議している。近隣市町の動向や費用対効果を踏まえ、児童生徒にとって有用性の高い機種の選定を行う必要がある。

4-(5) 学校教材、図書の整備・充実

業務の対象	児童、生徒	意図(対象をどうしたいのか)	基礎的・基本的な学習理解を助け、思考力・判断力・表現力や情報活用能力などを養う教育効果を高める。					
指標 31	学校司書の配置 (全校)		成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
			14	7	7	7	7	
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7			
	13,765 千円	17,412 千円	14,991 千円	13,376 千円				

[主な取組の成果と有効性]

※令和5年度から平郡東小学校再開

① 学校図書館の充実

- 学校図書館の整備 [学校教育課] [教育総務課]
 - ・児童生徒の学びを広げ、深めるための図書・資料の充実を図った。
 - ・図書購入費実績は、小学校費 3,586 千円、中学校費 1,392 千円。
 - ・全小中学校に学校司書を配置し、学習センターとしての学校図書館の役割を担えている。
- 学校図書館図書標準の向上 [教育総務課]
 - ・学校図書館図書標準達成率は、14 校中 10 校が 100%以上を達成（単純平均 117.1%）

② 教材や設備等の整備

- 学校教材・備品の計画的な整備 [教育総務課]
 - ・各学校からの要望にある大型液晶テレビ、糸鋸盤等備品のほか、顕微鏡や振り子実験機等の理科備品を整備

<学校司書の配置> [学校教育課]

評価 31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	C	C	C	C	
主な理由	・学校司書 7 人が、学校の規模等に応じて 1 校または 2 校、もしくは 3 校を担当し、実質的に全校へ配置して効果・効率の高い推進活動を行っているが、成果指標とする 1 校 1 人配置が達成していないため。				

[今後の課題と改善案]

- ・語彙力や文章力の向上、時代に応じた多様な価値観の醸成を育んでいくためにも、選書の方法については、各学校においての共通認識が必要である。
- ・各校の好事例を学校図書館担当や学校司書間で共有し、児童生徒の読書活動のさらなる充実に向けた取組が必要である。

(4) 令和6年度の重点事項における個別評価

«学校教育»-----

学 01) 「学校・地域連携カリキュラム」を活用し、「社会に開かれた教育課程」の実現を図り、子どもたちの資質・能力を高めます。

→ 【夢の5関連】 総合的な学習の時間や各教科等との関連を図りながら「学校・地域連携カリキュラム」の見直しを図り、地域の方との協働の場面がある体験学習を行う学校が増えてきた。多様な人の関わりが、子どもたちの資質・能力を高めることにつながることを引き続き周知していきたい。また、教職員や学校運営協議会員、地域コーディネーターを対象とした研修講座や県主催講座への参加支援を行っており、引き続き地域と連携を図りながら、学校の教育力向上に努める。

学 02) 学校運営協議会の熟議の充実を図り、地域協育ネット、学校応援団の機能を活用し、学校・家庭・地域の協働による教育活動を強化します。

→ 【夢の1,夢の2,夢の3関連】 地域の方や子どもを交えた熟議を通して様々な立場の人の思いを聞くだけでなく、話合いの内容を具現化する学校が増えてきた。このことを通して地域の方々の参画意識が高まり、学校応援団の活動が充実してきた。また、学校運営協議会での熟議により、学校・家庭・地域が一体となって地域学校協働活動を進められた。今後も各学校、各地域協育ネットの好事例を共有しながら教育活動を充実していく。

学 03) いじめ、不登校への積極的な取組として、自己肯定感や他者肯定感を高め、人間関係調整力を育成するために、活力ある集団づくりに努めます。

→ 【志の6関連】 各校の授業で対話的な学びの時間を設定したり、人間関係づくりの活動を取り入れたりする中で他者との関わりは多くなっている。自己や他者のポジティブ行動を支援する取組を学校全体で行うことで自己や他者の良さを認め合える学校風土を広げていきたい。

学 04) 学習の積み上げが成果として顕著に表れる算数・数学の特定の教科に焦点を絞り、基礎・基本の確実な習得に向けた指導を集中的に行うことで、子どもたちの学びの充実を図ります。

→ 【志の1関連】 特定教科学力強化事業（3S事業）の取組により、各校の基礎・基本の確実な習得に向けた指導の意識が高まり、全国学力・学習状況調査の小学校算数の結果について、令和4年度は全国平均から-5.2ポイントに対して、令和6年度は全国平均から+3.6ポイントと成果が見られた。この取組を継続していくことで、中学校数学へ繋げるとともに、課題解決力や論理的思考力など、教科等を横断する汎用的なスキルの育成を目指していく。

学 05) 1人1台タブレット端末等を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させ、すべての子どもたちの可能性を引き出す主体的、対話的で深い学びの研究を推進します。

→【志の1, 4-(4)関連】 1人1台端末や通信環境の整備、ヘルプデスクの設置などにより、ICTを活用した学習環境が整い、日常的な活用が定着してきた。個別最適な学びと協働的な学びの両面で成果が見られ、子どもたちの主体的・対話的で深い学びを目指す実践が進んでいる。今後もICT環境の充実を図り、さらなる学びの質の向上を目指していきたい。

学 06) 言語活動・情報教育の充実や英語教育の推進を通して、コミュニケーション力や表現力、情報活用能力の育成を図ります。

→【志の8関連】 言語活動の工夫やICTの活用により、自分の考えを的確に表現する力や相手意識をもった伝え合いの力が向上してきた。外国語の英語科の授業でも、音声やICT教材を活用した実践が広がり、聞く・話す力に加えて、英語を使って伝える意欲の育成にもつながっている。今後も各教科等を通じた指導の充実を図り、思考力・表現力のさらなる育成を進めていきたい。

学 07) 複式学級等の指導方法について、学級集団づくりや学習リーダー等の研究を深め、小規模校での学びの充実を図ります。

→【志の1関連】 学級経営や複式指導に関する研究を通じて、学年を超えた関わりや学習リーダーの育成が進み、小規模校ならではの学び合いの文化が育ちつつある。日々の授業や生活の中で子ども同士の支え合いや主体的な姿が多く見られ、学級集団としての一体感も深まってきた。今後も実践の蓄積と共有を進め、より豊かな学びの場づくりを目指していきたい。

学 08) 子どもたち一人ひとりの学力を保障するために、データに基づいた学力向上に向けた指導の充実を図ります。

→【夢の1, 夢の2, 夢の3関連】 四則計算実態調査（Yベース）により一人ひとりの到達状況を明確にして学び直しを図ることができた。また、全国学力・学習状況調査や総合学力調査の結果を分析し、学び直しの機会を設けたり誤答分析による授業改善を図ったりすることができた。今後も適宜学び直しの機会を設けることで、着実な学力向上に向けた指導の充実を図っていきたい。

学 09) 教職員一人ひとりの個性を生かした組織づくりや働きやすい環境づくりを進め、地域や関係機関との連携による「チーム学校」としての機能強化を進めます。

→【志の8関連】 各校がコミュニティ・スクール運営推進書を作成し、様々な方々に協力していただきながら組織的に学校運営を行っている。また、業務改善の視点をもって学校・地域連携カリキュラムの見直しを進め、働きやすい環境づくりにつなげている。

学 10) 中学校生徒の給食費無償化により、子育て世帯の経済的負担を軽減します。

→【志の3関連】 中学校生徒の給食費無償化のため、給食費の経理を担っている柳井市学校給食会へ、中学校生徒分の給食費を補助した。

«社会教育»-----

社 01) 学校教育と両輪で進めるスクール・コミュニティに取り組む体制を構築します。

→【夢の1,夢の2,夢の3関連】 学校運営協議会や地域教育ネットを通してスクール・コミュニティ構想の理解を図るとともに、教育活動を通して学校づくりと地域づくりを進めることで意識を高めることができた。また、地域学校協働活動推進員と社会教育主事が連携し、学校や地域の実態把握に努めるとともに、スクール・コミュニティだより「こやらい」を通じた情報発信を実施する。

社 02) 地域に伝わる知恵や技術の伝承活動を促進します。

→【愛の7,夢の5関連】 地域人材による授業や地域の伝統を学ぶ学習などを通じて、引き続き地域に伝わる知恵や技術の伝承活動の保存及び継承について支援する。

社 03) 自然体験活動を促進し、しなやかでたくましい子どもを育てます。

→【愛の2,愛の5関連】 星の見える丘工房で年2回の天体観測会を開催した。引き続き季節ごとの天体観測会を実施する。

社 04) 公民館活動における学習講座を工夫し、交流や生きがいづくりを図ります。

→【愛の2関連】 定期講座のほか、小学生生活講座、しめ縄教室、絵手紙教室など、児童から一般までを対象とした講座・行事を開催した。地域住民の交流の場や生きがいづくりの場となるよう、引き続き多様な講座を実施する。

社 05) 家庭教育支援チームを強化し、家庭教育に不安を抱える保護者等への相談活動を充実します。

→【夢の5関連】 家庭教育・子育てに関する相談会や就学時検診時に子育て出前講座を開催しました。引き続き、不安を抱える保護者等に多様な相談機会を提供する。

社 06) 学校図書館司書やボランティア団体との連携を図ります。

→【愛の2関連】 学校図書館司書との連携会議を3回開催し、みどりが丘図書館の展示や選書に意見を取り入れるとともに、学校へ貸し出す本を選ぶ作業を協働で実施することで互いの業務を理解し、意思疎通が図れた。読み聞かせボランティア団体によるおはなし会の開催を継続するほか、みどりが丘図書館開館では、図書館サポーターを募集し、59人の応募を得て諸活動に参画いただいた。

社 07) 市民活動センターとの連携を進めます。

→【愛の2関連】 みどりが丘図書館を共同で運営するにあたり、職員間の意思疎通を図り、運用に支障なきよう努めた。市民活動が図書館内で実施されることで来館者の目に触れ、活動に広がりが生まれるとともに、図書館に今まで来たことがなかった人が来館される機会ともなる好循環が継続するよう、引き続き連携を進めていく。

社 08) 地域資料のデジタル化を進め、デジタルアーカイブサイトの充実を図ります。

→【愛の2関連】 令和6年度については、資料のデジタル化を行わなかったが、資料価値や有益性を測りながら順次デジタル化を進め、デジタルアーカイブサイトの充実に努める。

社 09) 幅広い世代において本に親しむ心を養うため、本と接する機会の提供と興味・関心の醸成を図ります。

→【愛の2関連】 妊娠期からの読み聞かせを勧めるマタニティ・ブックギフト事業は、図書館来館のきっかけとしても成果が見られる。職場体験や図書館見学の積極的な受け入れや、中学生ビブリオバトル大会などのイベント実施を通して児童生徒に働きかけるとともに、ティーンズエリアの蔵書充実を図っている。また、大活字本や朗読CD等、高齢者が利用しやすい資料の所蔵に努めている。

«スポーツ・文化»-----

ス 01) スポーツ少年団の啓発活動を工夫し、活性化を図ります。

→【愛の5関連】 令和6年度は21単位団が活動しました。活動周知のため市内の小学生を対象に団員募集冊子を作成し配布し、令和5年度には351人であった団員が370人に増加したが、長期的な視点では、登録団数、団員数ともに減少傾向にある。スポーツ少年団が実施する行事内容をより充実させ、魅力あるスポーツ少年団の情報発信に努める。

ス 02) バタフライアリーナ、ビジコム柳井スタジアム、弓道場等のスポーツ施設の利便性向上に向けた整備を図ります。

→【愛の5関連】 大規模施設改修によって冷暖房機能を備えたバタフライアリーナは、利用単位をこれまでの半面から1面に変更し利用者の細かいニーズに対応しているほか、大規模スポーツ施設においては引き続き指定管理者制度を導入し利用者の利便性向上を図っている。新築の弓道場の使用規則、料金等の設定においては、引き続き関係団体からの意見聴取を行い、取り決める。

ス 03) 施設の改修工事を計画的に実行し、より快適な環境づくりに励みます。

→【愛の4関連】 建築後50年を経過した文化福祉会館やサンビームやない等について、実施計画に基づいた計画的な施設改修・整備により、施設の長寿命化を図るとともに、利用者が快適に利用できる魅力的な施設となるように努める。

ス 04) しらかべ学遊館や月性展示館等の展示施設を活用し、郷土の文化財や人物の情報を発信します。

→【愛の6関連】 令和6年度には、伝建地区選定40周年記念事業として、講演会、スタンプレリーなどを実施し、地域の文化遺産の情報発信を図りました。また、しらかべ学遊館の展示について、市民の興味・関心の集まる内容を工夫する。

ス 05) 地域の文化遺産について調査・研究を深め、郷土愛の醸成と保全・継承に努めます。

→【愛の7関連】 令和6年度は、年6回の「郷土史講座」を開催し、市広報に「郷土史コラム」を連載した。市内で行われる発掘調査の報告書作成、展示等を行い、地元の歴史と文化への関心と理解を促進した。

ス 06) 部活動の地域移行に係る改革を進めます。

→【愛の5関連】 令和7年2月に「柳井市学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する方針」を定めた。「学校部活動を継続させ地域連携を確実に進める。地域移行については、まずは休日において新たな地域クラブ活動の要件が整った種目から段階的に移行する。」との基本方針のもと、現在は、部活動指導員7人、外部指導者23人を各校に配置し、地域連携を実施している。

«環境整備»-----

環 01) 学校施設の安心・安全対策として、柳井市学校施設長寿命化計画に基づき、老朽化対策等の施設改修を進めます。

→【4-(2)関連】 全学校校舎の耐震化は、令和元年度に完了している。その後は、非構造部材の耐震化に取り組んでいる。令和6年度は、伊陸小学校屋内運動場改修の実施設計を行い、令和7年度からは、伊陸小学校屋内運動場の改修及び大畠小学校校舎の外壁改修工事を予定している。

環 02) 安全で快適な学びの環境づくりのため、特別教室の空調設備の整備やトイレの洋式化を計画的に進めます。

→【4-(2)関連】 普通教室棟における空調設備は、令和元年度に全小中学校の整備が完了し、特別教室等への設置に取り組んでいる。令和6年度は、柳井小学校理科室、柳北小学校音楽室、柳井南小学校理科室、小田小学校多目的室、大畠小学校理科室、大畠中学校金工・木工室に設置した。また、普通教室棟におけるトイレの洋式化は、令和2年度に全小学校、令和5年度に柳井中学校の整備が完了した。令和6年度は、大畠中学校屋内運動場トイレの洋式化改修を実施した。

環 03) G I G Aスクール構想により整備した通信ネットワーク及び1人1台タブレット端末の適切な維持管理に努めるとともに、I C Tを活用した学習環境の整備を進めます。

→【4-(4)関連】 令和3年3月に、児童生徒教員用のタブレット端末(i Pad)と、ネッ

ト環境を整備している。令和6年度から、「山口県統合型支援システム」を県市町共同調達で導入した。

環 04) 教員のICT活用指導力の向上やICT機器の操作支援を行うため、ICT支援員を配置し、教員へのサポート体制を強化します。

→【4-(4)関連】 ICT支援員の雇用と、児童生徒、保護者家庭、教職員へのタブレットなどICT機器活用に関しての助言や操作支援を行うことのできるヘルプデスクを設置し、周知のためのチラシも配布した。また、教員が授業においてICT機器を効果的に活用するための研修を実施した。

5 学識経験者の知見

(1) 点検及び評価全般

・全体的な取組として、評価に値すると感じている。図書館については、柳井市民だけでなく広い地域で利用されている。教育は数値だけで評価されるものではなく、「意図」ではないかと考えており、本来の教育的な「意図」を大事にしてほしい。

・スクール・コミュニティを始めた最初の頃は、ぎこちない面もあったが、年々内容が高まっているように感じる。さらに、高まるということでは、学校応援団は、柳井市独自の取組で、学校のパートナーとして向き合えることが大きな特徴になっている。当たり前に地域の人が学校に来るようになって、しっかりと課題やテーマをもって取り組むことが重要であり。そして、時には、学校応援団のメンバーも入れ替わっていくことも大事である。

その他、学校の先生と地域が話し合う機会の充実が必要と感じている。

(2) 取組ごとの知見

【1 自分を愛し、人を愛し郷土を愛する教育の推進】 愛の1～愛の7

・評価2の図書館連携会議の開催回数の主な理由として、一般利用を含めてそのとおりだと感じた。2年目につながるよう柳井図書館が地域や学校をつなぐ役割をとして機能を発揮している。

・評価3の公民館講座や各種教室の開催件数については、B評価であるが成果指標の100回が多く設定してあるので、実際には様々な講座を開催し、内容も充実していることからA評価に値すると考えられる。

・伝統文化・芸能の保存・継承のところで、自分も地域の文化行事に携わっているが、継続は難しい状況になってきているので不安がある。継続していくためには、何のために、

どこが重要かを考えて、映像に残すなど選択して続けやすいように変えていくことも考えている。

- ・新しい阿月公民館を見学してみたが利用状況もよく施設も大変良いと感じた。今後は、伊保庄公民館も古くなったので、建てかえていくほうが良いと思う。利用者とも話し合う機会を設けてはどうだろうか。

⇒伊保庄公民館については、現在、伊保庄地区コミュニティ施設整備事業として、公民館整備と特別養護老人ホーム伊保庄園の移転の話があり、伊保庄公民館利用団体や地元住民向けの説明会を開催し、概ね理解を得ている。公民館の機能面についてもご意見をいただいているので、公民館の整備については、地元の意見や活動状況を参考に進めていきたい。

【2 夢をはぐくむスクール・コミュニティづくりの推進】 夢の1～夢の6

- ・スクール・コミュニティについて、地域との連携を実施しているが、学校の負担感はどうなっているか。

⇒最初は、地域との連絡など負担感はあったようだが、現在は、地域の協力で学校も助かっている面が多くあり、スクール・コミュニティが当たり前になっていることから負担感は少なくなっている。

- ・各学校の地域コーディネーターとの協議回数で評価Bの主な理由は、情報共有から他の学校、地域への情報発信も行っているので、もう少し評価されても良いのではないか。

- ・放課後子ども教室の開催回数の評価Cについても、特に高校生の参加が増えてきており、10年間のスクール・コミュニティの取組の成果が表れているように感じる。数値には表れにくいが質的向上が図られている。

【3 志を実現させるための力の育成】 志の1～志の8

【4 基本方針を支える環境整備】 (1)～(5)

- ・算数の補助職員の配置は3年目となり、しっかり成果が出てきたと感じている。評価20教育のための巡回訪問の回数はC評価となっているが、訪問回数より質を重視して考えるとA評価に値するのではないかと感じている。

- ・新体力テストの柔軟性が全国平均を上回っているが、全体的には国の平均を少し下回っている原因は、なぜでしょうか。

⇒特別な原因は、見当たらないが、日常の中で動作が減少してきているように感じるので、影響があるのではないかと考えられる。

- ・全体的に、子どもたちの余暇の時間や場所が大切で、自分の地域の中で交流を大事にして友人をしっかりとつくれると良い。特に、子どもたちが楽しみを感じる交流活動を進めると

良いと思っている。

- ・相談支援体制の充実の中で、スクール・ソーシャルワーカーの配置が、3人から4人に増えたことで、相談支援体制の充実が図られている。学習環境を良くするためにには、やはり人材が必要になると感じている。
- ・SNSのトラブル対応としては、使用する上での注意やルールをしっかり身に付けてもらい、警察との連携も深めながら取り組んでほしい。

6 今後の取組に向けて

国の第4期教育振興基本計画では、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」の中で、将来の予測が困難な時代において、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて、持続可能な社会を維持・発展させていくことが提唱されています。

また、山口県では、社会状況の変化や子どもたちの状況等を的確にとらえた上で、これまでの取組の継承と発展をめざす指針として、「山口県教育振興基本計画」が策定されています。

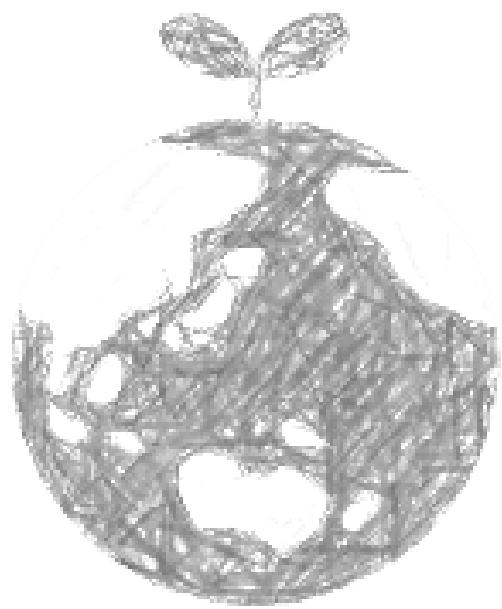
いずれも、将来予測が極めて困難な時代であっても、教育は社会を牽引する駆動力の中核を担う営みであり、未来に向けて教育投資を行うことを目指すものです。

今回の評価年度である令和6年度は、「愛、夢、志をはぐくむ教育～スクール・コミュニティによる教育のまちづくりの推進～」を教育目標とした、第2期4年間の中でも、A評価が最も高い値となり、数値的には取組の成果が認められものとなりました。

一方で、学識経験者からは、教育は数値だけで評価されるものではなく、本来の教育的な「意図」を大事にしてほしい、との意見もいただいています。

令和7年度は、第2期柳井市教育振興基本計画の最終年度となることから、引き続き、本市独自のスクール・コミュニティの取組やGIGAスクール構想等を的確に進めていくとともに、併せて、全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」や「協働的な学び」の実現に向けた取組への一定の成果をまとめ、次につなげることも大切となります。

このたびの点検・評価において、学識経験者から得た貴重な知見を踏まえ、あらためて確認、改善を図り、今後の取組に反映してまいりたいと考えます。



作成：山口県柳井市教育委員会